



設備女子会からのメッセージ①

建築設備技術者協会（JABMEE）が2012年11月18日に発足させた「設備女子会」。建設産業界で働く女性技術者、大学で建築設備を学ぶ女子学生をメンバーに、会員数は現在、約100人を数える。「女性たちよ、建設産業界へいらっしやい」。そんな彼女たちの思いをメッセージで伝える。



20数年前、当時の勤務先から、突然出向を命じられた私は、すこし上司を恨んだ。が、後になってみれば、これはラッキーカード。大手総合事務所で計画される超高層オフィスは時代の先端だったし、プロジェクトマネジメントと学術の両方の力を併せ持っていた。「女性で、設備屋で1級言葉に乗せられて資格を取っ

「つながる」ことを楽しむ

たのはその直後で、最も忙しい時だった。今、私の後悔の半分は、設備エンジニアの誇りと責任を常々説いていた故森村武雄会長率いる森村設計を辞めてしまったことだ。

その一方、当時とは違う身分となり、また違う社会を知って、得意ではない「つながる」ことの新鮮さを楽しむ気持ちが持てるようになった。これには元上司とママ友・家族に、いまさらながら感謝している。設備女子会会長を引き受けたのも、柔軟に引き受けてくれた、この業界への恩返しだと思っている。

竹中工務店 村瀬 澄江

J A B M E E



設備女子会からのメッセージ②

25年近く設計部に所属し、学校や病院、集合住宅の設備設計に携わってきた。設備設計のおもしろさの一つは、建築主のボンヤリとしたニーズをシステム化して実現する、すなわち「言葉を数値化する」ことだと思っている。最終的



言葉と数値を両方通訳

には、太陽光発電や床吹出空調。中水システムや防災プログラムといった具体的な設備システムへとつながるが、その根幹にあるのは、携わる人たちの言葉、「想い」だ。一方、設備システムの内容を分かりやすく建築主に伝える、つまり数値を言葉にすることの重要性も感じている。「言葉」と「数値」、両方向への通訳が設備エンジニアの役割ではと考え、精進する毎日である。

山下設計 大山 有紀子

JABMEE



設備女子会からのメッセージ③

就職して気がつけば9年目になった。入社当時の建設業界はまだまだ「男性社会」という印象が強く、特に設備担当では女性が少なかったために、よく珍しがられた。けれども最近では設計者だけでなく、役所、建築・設備施工業者などでも女性担当に会う機会が増え、業界の雰囲気が変わったように感じる。社内でも後輩の女性設計者の割合が高く

明るさ生かし活性化

なってきたおり、育休や産休を経て職場復帰も珍しくなくなった。
徐々に女性が増加している業界だからこそ、女性に勢いがあり、新たな視点にも新鮮さを感じている。女性が集まると、何かとかしましいと言われるが、この明るさを生かして、これからの建築業界、設備業界を活性化していきたいと願う。



設備女子会からのメッセージ④



私がこの仕事に就いたのはバブルがはじけた直後の1995年。「設備は採らない」「女性は採れない」「修士卒は不要」と、設計事務所、ハウスメーカーにあいさつに行っても門前払いばかりの中、唯一採用試験の機会を与えてくれた設計事務所に、奇跡的に入社できた。

それまで大きな苦労も挫折もしたことはない私は、口の

仕事も家庭も忙しく、充実

悪い周囲に悔しい思いをして、何度泣いたことか。そのうち、社会人には「鈍感さ」が重要と体感してきた。

そして、結婚、2回の育児休暇を経て、仕事以外の大事なこと・時間が大きく占めてくると、その「鈍さ」にも拍車がかかってきたようだ。

今は幸せなことに、仕事も家庭も（苦労も多いけど）楽しく、忙しく、充実している。こんなに長く働いているとは自分でも驚くばかりだが、とりあえずまだ楽しいことの方が多いから、しばらく仕事を続けるか。皆様に感謝。

竹中工務店 勝野 真代

JABMEE



設備女子会からのメッセージ⑥



入社5年目。3年目の時に、着工から竣工まで設備施工管理業務を担当した。多数の会社との調整が難航し、反省する日もあったが、無事故での大型機器搬入完了時や受電時、竣工後に建築主から「お

唯一無二のもの づくりに身を投じる

かげさまで快適になった」と言われた時は、とても感動し、やりがいを感じた。現在は、病院の設備設計を担当しており、快適で使いやすい設備となるよう、きめ細かな視点での設計を心掛けている。設備エンジニアとして成長し、これからも建設業の醍醐味である唯一無二のものづくりに身を投じ、建築主から快適になったと言われる建物をつくりたいと思う。

森村設計 中野 美和子

JABMEE



設備女子会からのメッセージ⑥

かつて「男のくせに女なかに舐(な)められやがって」と言われているのを聞いたことがある。打ち合わせが終わってトイレに立ち寄り引き上



げようとした私の耳に届いた。言われていたのは、つい先刻まで打ち合わせをしていた男性。気の毒にと思ったが、本当に気の毒だったのは次回

建築設備は結構女性向け

からの打ち合わせで、不合理な検討をいくつも要求された私だった。

「あいつも大変なんだ。大目に見てやってよ」と言ったのは彼の同僚。男の面子(めんづ)は厄介なもの。その点、女性の方が余計な思惑抜きで仕事ができる。仕事以外にもやる事がたくさんあるから仕事の効率もいい。力仕事でもない。経験不足は理論と想像力で補えばいい。想像力なら男性より女性に利がある。建築設備は結構、女性向きの仕事だと思う。

インゼン
佐藤工業 尹 善

J A B M E E



設備女子会からのメッセージ⑦



「絶対負けない、例え自分であろつが、男性であろつが」。入社1年目、いつも自分に言い聞かせている言葉。建築業界は自分が好きで選んだ道であり、やればできると信じている。現在は建築設備の設計を担当。それを経過して、次

設備女子だって

は現場に「出馬」の予定。当然、他の設備女子たちと同じく、出産、育児の悩みは抱えているが、自分が好きな仕事は絶対に諦めない気持ちで、毎日の自己成長を心掛けている。

また、業界女子の数が少ない分、皆さん優しく接してくれるのもありがたく、今後とも上司に相談しつつ、他の男性たちに負けないよう、しっかり仕事をこなしていきたいと思う。あなたは？

新菱冷熱工業
中央研究所

佐川 美佳

JABMEE



設備女子会からのメッセージ⑧



当社には、設計・施工・営業・事務系のほか研究の部署があり、私は入社して以来、中央研究所に所属し、現在は、次世代型植物工場の研究開発に取り組んでいる。
入社して20年、研究を進める中で考えることの重要性を

研究成果の社会還元が夢

学んだ。最近では、研究の方向性や成果の活用について考えをめぐらす時間も増えている。

これまでの数々の失敗経験を経て、頼りなかった自分がやっと明確な意見を持てるようになった気がする。

次世代型植物工場は少し先を目指した研究だが、いつか自分たちの研究成果が事業の一端となって、社会に還元されるのがいまの目標である。

高砂熱学工業 澁谷 紘子

J A B M E E



設備女子会からのメッセージ⑨

私は現在、設計部に所属している。仕事の内容は、改修から新築建物の設備設計、現場支援や概算と多岐にわたる。担当する建物の種別もさまざまである。まだまだ知識や経験不足で、毎日が勉強の日々を送っている。

入社するまで、空調のきいた快適な室内、蛇口をひねれば水が出る…そんなことが当たり前だと思っていた。いま

なくてはならないもの だからやりがいを感じる

の仕事に就いて、そんな「当たり前前」は、こんなにたくさんの人たちの苦勞と努力のお陰だったのだと肌で感じるようになった。

また、仕事でお客さまと話す機会を重ねるにつれ、建築設備は、「当たり前前もの」「イコール」なくてはならないもの「なのだ」と強く感じるとともに、日々、今の仕事へのやりがいを感している。

竹中工務店

菊池 文

JABMEE



設備女子会からのメッセージ⑩



1年半、着工前プロジェクトの設計図や工事工程に、さまざまな設備工法を盛り込む設備施工計画を担当してきました。そこでの最後の業務は、これから自身が施工担当となる作業所の、大型設備機器の揚重計画だった。設計者や建築担当者とは協業しながら、ク

ものづくりにやりがい

レーンの設置条件や関連工事の工程を踏まえて、機器配置や揚重時期を調整するという役割だ。

現在は、作業所で計画どおりに設置できるかという不安を抱えつつも、ものづくりに挑めるのがうれしく、とてもやりがいを感じながら業務に取り組んでいる。これからは、お客さまの生の声を聞きながら、計画を実際の現場に落とし込み、喜んでいただけるような建物づくりに励んでいきたい。

ダイキンエアテクノエンジニアリング 佐藤 典子
ニアリング部技術グループ

JABMEE



設備女子会からのメッセージ⑪



普段仕事をしていて感じるのは、努力する人間に先輩・後輩は関係ないということだ。特に、「女性だから」という甘えた考えは通用しない。だから、常に腕を磨き、実力を向上させなければ、あつという間に追い越され、淘汰（とうた）されてしまうという危

常に腕磨き実力向上を

機感を持ちながら、仕事に取り組んでいる。

学生時代に建築を学んだ私が建築設備業界に入って、10年近くが経った。この仕事に愛着がわいてきただけでなく、新エネルギーの開発、スマートシティーや省エネ技術の進化に伴い、建築設備の役割がますます重要となっていく。いまの時代に、この仕事にかかわれたことが良かったとつくづく思う。これは、わたしの息子への自慢話にもなっている。

アサヒファシリティズ 内田 理子

JABMEE



設備女子会からのメッセージ ⑫

「建物を建てる」ことより「建物をどう生かすか」に興味があった私は「ビルメンテナンス」という業界を選んだ。

具体的にはその建物についてどのようなメンテナンスを行っていく必要があるか、保守計画のベースとなる資料の



管理・運営のプロへ精進

作成を行っている。

設計・施工のエンジニアの方々と図面を見ながら協議することもあり建築・設備について広範な専門知識が必要とされる。

まだまだ勉強不足で苦戦する毎日だが、周囲にやさしく時に厳しく、助けてもらいながら一つひとつ乗り越えている。

建物設備について、管理計画・運営維持のプロとなるべくこれからも日々精進していきたい。

九電エエエネルギーソリューション部 近藤 薫子

JABMEE



設備女子会からのメッセージ^⑬



空調・熱源・BEMS（ビル・エネルギー・マネジメント・システム）の省エネ提案営業、すなわち現地調査から企画・提案、設計・見積もり、竣工後のフォローアップまでが私の仕事である。
お客さまに提案をする上でいつも心掛けていることは、既存設備の問題解決にとどま

先見据え、未来を計画に

らない、広い視野を持った計画をすることだ。お客さまそれぞれの立場、視点から10年、20年先を見据えた未来を計画に反映させることがこの設備のおもしろさであり、技術者としての自身の務めだと感じている。
入社して、はや5年半、1年間の現場経験を含め、数々の失敗や喜び、すべてが私の糧であり、支えてくださる方々やお客さまに感謝しつつ、九州の地からさらなる設備業界の発展に向け、まい進していきたい。

アサヒファシリティズ 岡田 麻里

JABMEE



設備女子会からのメッセージ⑭



ビルメンテナンスという業界を選んだ理由は単純で、建築物が好きだったからだ。しかも、つくることより、訪れて見ることが好きだった。素敵な雑貨や服を見るのと同じ興味で見ている。ビルでも住宅でもそこに訪

ユーザーの反応で成長

れ、居住する人たちが快適で素敵な時間を、不安なく過ごせるための仕事がしたいと思った。

実際の業務は、建物ごとに設計コンセプトを正確に生かし、機能を維持するために必要なメンテナンス計画やコストについてオーナーに提案している。

ユーザーからの反応がダイレクトで早いので緊張感のある仕事だが、そういうありがたい反応で日々成長させてもらっている。

きんでん 高松 篤子

JABMEE



設備女子会からのメッセージ¹⁵



「建設業界に専攻の電気の知識を生かせる仕事がある！」。そう知って、これだと飛び込んだのが20年近く前。前職のゼネコンでは建築電気設備の設計を担当。転職後のいまは、技術営業、技術提案など川上側の仕事が増え、大学の非常勤講師を務め、恩師と

無理難題は実力伸ばす機会

の共著も出版した。仕事の幅が広がり毎日充実している。すべての仕事は人との縁。技術士の資格を取れたのも受験を勧めてもらった周囲のおかげ。「無理難題を」と当時は思っただけのお客さまや社内の要望も、実力を伸ばすチャンスであり振り返れば感謝だ。縁あって与えられたチャンスに乗り何とか頑張ってきた。子育てとの両立も、理解ある家族に恵まれ何とかやっていけそう。皆さまに感謝しながらこれからも精進していきたい。

成和技建一級建築士事務所 泉 聖子

JABMEE



設備女子会からのメッセージ⑩



1991年に設備工事会社に入社、大阪支社で空調設備の設計をしていた。思いがけず三つ子を妊娠・出産、ひとりに重度の障害があり退職。夫が営む設計事務所に籍を置きながらも子育て中心の毎日だった。

転職は4年前、夫の勧めで設備設計1級建築士を取ったこと。三つ子はまだ5歳で勉強は大変だったが久しぶりに

面白さと可能性いま改めて

接する技術は楽しく、刺激的だった。ブランクのあるいまの自分でも何かできないかと現在模索中だ。

この春から大学で建築環境工学を学び直している。改めて新鮮に、この分野の面白さと可能性を感じている。

ワークライフバランスという言葉もなかった時代、特に関西では女性技術者がほとんどいない状況で、悩みをシェアできる女性の仲間がいたらもっと働きやすかったかもしれない。

設備女子会の活動に期待するとともに微力ながらお役に立てればと思っ。

新菱冷熱工業首都圏
事業部設計二部設計三課 松本ちあき

J A B M E E



設備女子会からのメッセージ⑦



「地に足が着いた仕事
したい」。そう言っ
てこの業界に飛び込
んだのは20年前。つ
くることに加わりたく
て設備施工会社を選ん
だ。施工会社では女子
トイレがある現場を
探すことから始まる
時代だった。
時に現場にかかりつ

技術・知識と奮闘の日々

設備設計に携わる日々でき
ようまで来た。

いまも2人の子どもを育
てながら、周囲の協力を得て
仕事を続けている。

5年も経てば一人前にな
れるだろうかとの思いで入
った世界は勉強の日々。この
年齢になっても知らない技
術・知識と奮闘する毎日、あ
まりに広く複雑な分野に気
が遠くなることもある。

それでもプロとしての心構
えを忘れずにこれからも働
いていきたいと思う。

日本設備設計事務所
協会参与(前事務局長) 木下 美代

JABMEE



設備女子会からのメッセージ[®]



私の協会人生のスタートは、徳島での保育所勤務の後、1974年、当会が日本設備設計家協会と呼ばれていたころだ。
東京五輪から10年後、そのころ会員の事務所では、大きな図面台に手書きの図面が乗り、先のとんがった鉛筆がた

継続は力なり

くさん置かれていた。

「木下さん、設備設計とはね……」と語る所長さんの、すぐかたわらに、そろばんを置く事務の方、そんなのどかな時代から、ことしで39年。

仕事の壁に何度も阻まれながらも続けることで、職場愛が根付き、今日の自分を支えてくれたように思う。継続は力なり。

新しい風を受けながら、家族愛に感謝し、仕事愛の道を進んでいけたらと思ってる。